

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.19 2007年10月31日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

## インタビュー

Emblaze-VCON 社 (エンブレイズ・ブイコン)



Emblaze-VCON 社

CEO Tal Barnoach 氏

聞き手：CNA レポート・ジャパン

代表 橋本啓介

テレビ会議に詳しい読者であれば VCON は長年テレビ会議システムの主要プレーヤーとしてその名を知られていることをご存じだと思ふ。日本においては過去に日本オフィスを設置しシステムインテグレーションなどで実績がある。この定期レポートでも度々製品発表や業績発表などをレポートしてきた。

ZONE-IP は、2005 年秋にイスラエルのテレビ会議メーカー VCON 社の買収を発表。その後 VCON 社は、

Emblaze-VCON 社として名称を変更、ZONE-IP 社の傘下に入り現在に至る。現在、新しいマネージメントを迎え、製品ラインナップの拡充とともに、現在ワールドワイドの事業展開を強化しつつある。

ZONE-IP は、旧 Ki-Bi Mobile Technologies 社。モバイルコンテンツやサービス向けのプラットフォーム開発に関連した事業展開を行うイスラエル企業。Emblaze グループの一社。

橋本：ZONE-IP が VCON を買収したきっかけは何でしょうか。

Barnoach 氏：VCON は、関連の特許やすばらしいプロダクトラインを持っていることから映像コミュニケーションに関する新しい事業機会を与えてくれると我々は判断し買収することにしました。それで今は Emblaze-VCON という名称になり、ZONE-IP グループの傘下企業となりました。

Emblaze-VCON は、映像コミュニケーション分野においてパイオニアであり、関連の多数の特許と高い技術力に裏打ちされた製品群を持っています。それは当社の今後の事業の良い可能性を示すと思っています。

そのため、我々は、VCON 社を買収することでその既存の製品ラインナップをより強化し、成長著しい市場での VCON の競争力を強化しリーダーとしての地位を確保していきたいと考えています。

当社には非常に優秀な人材が豊富におり、今後も彼らが核になってこの Emblaze-VCON を、IP ユニファイド・コミュニケーションのリーダーとして成長させてくれると期待しています。

そういった期待がふくらむ中で、Zone-IP は、

Emblaze-VCONの事業が成功裏に遂行されるために、資金面だけでなく、経営面でも支援していく考えです。

**橋本：**今の会議システム市場をどのようにご覧になっていますか。

**Barnoach 氏：**テレビ会議市場は、昨今話題になっているテレプレゼンスがテレビ会議全体の需要の火付け役になるとは見ていません。

それよりも、本当の火付け役は、システムの信頼性が高く、価格性能が良く、簡単に操作ができる、テレビ会議端末やネットワークインフラ装置、運用管理システムをトータル的にソリューションとして提供できるというところにあるのではないかと考えています。

ここは、我々がまさしくターゲットとしているところであり、尚かつ我々が得意としているところでもあります。我々の競争相手よりも、高品質ながらも、ユーザにとってコスト負担が少ない製品を出していると自負しています。

**橋本：**Emblaze-VCONとしてはどのような製品あるいはサービスを提供していますか。

**Barnoach 氏：**当社は、PC向けのデスクトップやテレビ会議専用端末、多地点接続装置(テレビ会議、音声会議)、NAT/ファイアウォールトラバーサル、会議スケジューリング、運用管理システムまで、端末系からネットワーク装置まで多岐に渡る製品ラインナップを提供しています。また、開発者向けの SDK も提供し、システムインテグレータのアプリケーション開発に役に立っています。

ここでご紹介しておきたい製品は、当社の VCB(多地点接続装置)という製品です。VCBは著名な検証機関などで厳しいテストを受け、映像音声の品質に影響を与える遅延をもっとも抑えたシステムと評価されています。

そして、もうひとつご紹介したいのは、テレビ会議向けリソースマネージメントサーバーです。これは 20 以上の豊富な

機能を提供しており、他社以上の性能と機能であると確信しています。



VCB Pro (多地点接続装置)

**橋本：**豊富な製品ラインナップを提供されているわけですが、御社の市場での強みについて教えてください。

**Barnoach 氏：**他社も同様な製品ラインナップを提供しているところもありますが、当社の強みは、それぞれの製品において最高の品質と豊富で便利な機能を低コストでユーザの予算の都合に合わせて提供できるというところにあります。

さらに、それらに加えて、顧客のニーズや個別の要望に迅速に対応することができるということが、数多くのお客様が当社を選択して頂く理由になっています。

また、特許を取得した「interactive multicast(インタラクティブ・マルチキャスト)」は当社が自信を持って提供している機能のひとつです。個別のアプリケーションに最適化した機能を提供できる力といったことも当社の強みと自負しております。

**橋本：**導入ユーザをいくつかご紹介していただけますか。

**Barnoach 氏：**つい最近の話ですが、あるドイツの有名自動車メーカーがウェインハウス社主催のカンファレンスにおいて、当社のテレビ会議ソリューションを導入したと発

表しました。この事例の特徴のひとつはテレビ会議システムが LDAP サーバと連携しているということが挙げられます。

その他では、英国放送協会 (BBC) では、当社のテレビ会議端末とマネージメントサーバーを使用しています。世界中に展開している BBC の記者の方々が利用されているのです。

政府系では、イスラエルの教育省やロシアの法務省などがあり、そういったところではテレビ会議システムのオペレーションが非常に複雑で高度な技術を要求されるのですが、当社で端末からネットワークサーバーまでトータルにインテグレーションを行い納品いたしました。

また、vPoint というデスクトップソフトウェアパッケージ製品を提供していますが、この製品は、映像と音声の品質や機能の豊富さから、金融、テレビ放送、通信衛星、インターネットサービスプロバイダーなど、多方面の企業に採用されています。

橋本：日本での展開はどうか。

Barnoach 氏：以前には日本にはディストリビューターやリセラー、OEM 関係もあったのですが、当社としては、今後、日本あるいはアジア太平洋地域で積極的に当社のテレビ会議システムを取り扱っていただけるパートナーを開拓し、当社のテレビ会議システムを日本のユーザの皆様にご利用いただければと考えています。

橋本：最後に今後のロードマップについて何かお話頂けることはありますか。

Barnoach 氏：当社は顧客からのフィードバックを重視しており、ロードマップはそのフィードバックを元に検討されています。当社の開発チームは、セールスエンジニアと共に顧客へ訪問し顧客のニーズや要望のヒアリングを行いその重要性などを検討した上で今後の開発に役立てることを日々考えています。また、それに合わせて開発部門へは相当な

額の資金を投入し製品開発を行っていきます。

橋本：ありがとうございました。

#### 【Emblaze-VCON 連絡先】

Ms. Linor Shachar, VP Sales and Marketing

Email: [linors@emblaze-vcon.com](mailto:linors@emblaze-vcon.com)

Fax: +972-9-762-7801

Tel: +972-9-762-7800

#### Emblaze-VCON International Headquarters:

Beit Rakefet

1 Emblaze Square

POB 2220

Ra'anana 43662

Israel

ホームページ: <http://www.vcon.com>



オルメルト イスラエル首相 (中央)、Barnoach 氏 (右) (2007年6月撮影)

## 業界 news-国内

## ポリコムジャパン、HD 対応ビデオ会議システム新製品とHDXシリーズ向けソフトウェアバージョン 2.0 を発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、HD(ハイデフィニション)対応のデスクトップビデオ会議システム「Polycom HDX 4000」シリーズと、ビデオ会議システム「Polycom HDX 8000」シリーズを発表。また合わせて Polycom HDX シリーズのソフトウェア新バージョン「Polycom HDX バージョン 2.0」も発表した。11 月より製品出荷を開始する。

ポリコムは現在「Polycom HDX 9000」シリーズを販売しているが、製品としては、Polycom HDX 9000 がハイエンドに対して、Polycom HDX 8000 はミッドレンジに位置づけられるセットアップ機種。それに対して Polycom HDX 4000 は、デスクトップタイプ、つまり机上などにディスプレイを設置して使用することを想定した機種。各シリーズには性能と機能によりいくつかのモデルがあるが、Polycom HDX 9001 と Polycom HDX 4001 は SD モデルのみ。SD (Standard Definition) とは、HD に対応していない従来のビデオ会議システム機種 (CIF、4CIF など) を指す。



HDX 8000 シリーズ

今回発表された Polycom HDX 4000 と Polycom HDX 8000 は、ハイエンドの Polycom HDX 9000 シリーズと同じプラットフォームで設計されており、22Khz のステレオ音声、720p/30fps の HD 映像、22khz ステレオ音声 (Polycom Siren22 StereoSurround)、HD 画質・フルモーションでのコンテンツ共有など、HDX 9000 シリーズと同等レベルの品質でビデオ会議が行える。



HDX 4000 シリーズ

ポリコムとしては、今回の Polycom HDX 4000 シリーズと Polycom HDX8000 シリーズを発売することで、これまでハイエンドに限定されていた HD 対応のビデオ会議システムをデスクトップや小から中規模の会議室での用途に拡大しながら、導入コストも下げることで HD 対応ビデオ会議システム市場の本格化を目指す考えだ。

Polycom HDX 4000 ビデオ会議システムは、役員室や小規模会議スペースでの使用に適した SIP/H.323 対応機種。XL HD カメラは、パン/チルト/ズームに対応し、その他マイク、Hi-Fi スピーカー、サブウーファ、操作キーパッドを搭載している 20 インチ液晶ディスプレイと、本体ボックスで構成されている。ビデオ会議を行っていない時はディスプレイを PC モニターとして使用することもできる。

Polycom HDX 4000 シリーズで提供されるモデルは以



下の通り。(1)「HDX 4001」、(2)「HDX 4001 XL」(HDX 4001 +データ共有)、(3)「HDX 4002」、(4)HDX 4002 XL (HDX 4002 +データ共有)。なお、HDX 4001 XL および HDX 4002 XL のデータ共有ライセンスには、People+Content、People+Content IP、People On Content が含まれる。

一方、XLP Polycom HDX 8000 は、小規模から中規模の会議室向けを想定した製品で、コンパクトな設計ながら、さまざまな機器との接続をするための映像と音声の入出力端子を備えている。Polycom HDX 9000 シリーズと同じ Polycom EagleEye HD カメラ、HDX 用リモコン、HDX 用マイクを使用する。

Polycom HDX 8000 シリーズで提供されるモデルは以下の通り。(1)「HDX 8002」(EagleEye カメラ、HDX マイクアレイ、英語リモコン付)、(2)「HDX 8002 XL」(HDX 8002 +データ共有ライセンス)、(3)「HDX 8004」(EagleEye カメラ、HDX マイクアレイ、英語リモコン付、4Mbps サポート)、(4)「HDX 8004 XL」(HDX 8004 +データ共有ライセンス)、(5)「HDX 8004 XLP」(HDX 8004 +データ共有ライセンス + 4 拠点内蔵 MCU ライセンス)。なお、HDX 8002 XL、HDX 8004 XL および HDX 8004 XLP のデータ共有ライセンスには、People+Content、People+Content IP、People On Content が含まれている。

また今回同時に発表されたソフトウェア新バージョンは、「LPR テクノロジー(Lost Packet Recovery)」を搭載しており、HDX シリーズに標準搭載される。LPR テクノロジーは、QoS 機能のひとつで、IP ネットワーク上で発生するパケットロスによるビデオ会議品質への影響を最小化する技術。公衆インターネットなど頻りにパケットロスが発生する環境でも、品質の高いビデオ会議を行うことができるとポリコムジャパンでは説明している。

Polycom HDX 9004 の内蔵多地点接続機能(オプション)は、今回のバージョンから自局(その機能を持った端末)を含めて最大 8 拠点までの HD 品質での接続が可能となる。

Polycom HDX シリーズ バージョン 2.0 ソフトウェアは、

2007 年 10 月下旬に出荷開始。ポリコムの保守契約期間中の Polycom HDX シリーズビデオ会議システムは、バージョン 2.0 に無償でアップグレードが可能。

メーカー希望小売価格(税込み)は、Polycom HDX 8002 が 181 万 6,500 円～、Polycom HDX 8004 が 231 万円～(Polycom EagleEye カメラを含む)、Polycom HDX 4001 は 131 万 2,500 円、Polycom HDX 4002 は 164 万 8,500 円～となっている。

### ジャパンメディアシステム、Web 会議システム新バージョン発表、メディア再生機能、再接続機能など追加

ジャパンメディアシステム株式会社(東京都千代田区)は、Web 会議システム「LiveOn(ライブオン)」Ver5.0 ASP 版及び Ver5.0i イントラパック版を 10 月 28 日から販売開始した。LiveOn は、インターネットエクスプローラー(ブラウザ)上で動作し、URL にアクセスするだけで利用できる。質の高い音声と映像を提供するために音声と映像の送受信を常時監視する機能、資料共有、ホワイトボード、会議開催メール、録音録画などの機能を持つ。

今回の新バージョンは、動画や音声ファイルに保存できる機能、またイントラパック版にはスケジュール機能が新たに追加された。

今回の詳細は以下の通り。

(1)メディア再生機能の追加。AVI、WMV、MP3 などの形式の動画や音声ファイルの配信。(2)録音録画機能の保存方式を変更。録音録画機能のファイル保存形式を LiveOn 独自のものから、AVI 形式で保存するように変更。(3)資料共有機能の強化。Microsoft Word、Excel、PowerPoint のファイルを直接アップロードして共有する機能の追加。(4)映像入力方式を DirectX に変更。カメラ映像の入力方式を Video for Windows から DirectX に変更。(5)ファイル送信機能の強化。参加者全員に一括でファイルを送信する機能。(6)AEC(アコースティック・エコー・キャンセラー)を追加。ただし、Windows XP 以降の OS のみ対

応。(7)再接続機能の追加。通信回線に瞬断が起ころとも自動的に接続を復旧する機能。

また、イントラパック版のみに追加されたものは、上記に加え(1)スケジュール機能。各自に予定されている会議情報をカレンダー形式で表示する機能を追加。(2)ビデオ設定制御機能。ビデオ解像度及びフレームレートのデフォルト値や上限を設定する機能。(3)ユーザ情報の一括ダウンロード。登録されているユーザ情報をグループ毎に CSV 形式でダウンロードする機能、などとなっている。

### アイ・ティー・テレコム(旧モーラネット)の Web 会議サービス、新バージョン発表

アイ・ティー・テレコム株式会社(東京都港区)は、Web 会議サービス「MORA Video Conference」Ver5.0(ASP モデル)、及び Ver5.0i(サーバー導入モデル)を10月28日から販売開始した。

MORA Video Conference は、ネットワーク環境とブラウザがあれば利用可能な Web 会議サービス。月額 2,100 円(税込)定額制の「ASP モデル」とカスタマイズが可能な「サーバー導入モデル」を提供している。



#### MORA Video Conference

MORA Video Conference は、ジャパンメディアシステムの LiveOn をプラットフォームとして提供されている Web 会議のため、今回同時期にジャパンメディアシステムから発表されたバージョン 5.0 の内容と同じだが、今回追加された機能は以下の通り。

(1)メディア再生機能の追加。(2)録音録画機能の保存

方式を変更。(3)資料共有機能の強化。(4)映像入力方式を DirectX に変更。(5)ファイル送信機能の強化。(6)AEC(アコースティック・エコー・キャンセラー)を追加。(7)再接続機能の追加。

また、サーバー導入モデルのみに追加されたものは、上記に加え(1)スケジュール機能。(2)ビデオ設定制御機能。(3)ユーザ情報の一括ダウンロード。

アイ・ティー・テレコム(旧モーラネット)は、ITX 株式会社(東京都千代田区)の100%子会社。

### エルモ社、HD テレビ会議システムに使用できる書画カメラを提供

株式会社エルモ社(愛知県名古屋)は、HD 対応のテレビ会議システムと連動して使用することが可能な書画カメラ・ビジュアルプレゼンター「P100」を2006年10月から販売している。

P100 は、シンプル操作設計でクイックセットアップが可能。「使用頻度の高い、ズーム、オートフォーカス、ライン切り替えなどや、3.5 インチの液晶モニタを右手前に集めることで必要な機能を簡単にかつシンプルに操作できるようにした。被写体に対するスムーズかつ瞬時のフォーカスが可能なワンプッシュオートフォーカス機能をも搭載している。」(エルモ社)

一体型液晶モニタを内蔵しており135万画素 CMOS イメージセンサーに64倍ズーム(光学16倍xデジタル4倍)を搭載。毎秒30フレームに対応している。「当社の使用レンズは自社開発で高倍率光学ズームにこだわりってきた。64倍ズームは、様々な書物、テキストの細部にわたる高解像度による表現性はもちろん、立体物やスライドフィルムなどの特殊な資料もその被写体の形状にあわせてカメラの角度を柔軟に変えて(フレキシブルアングル機能)忠実に投影することが可能だ。極小サイズの被写体、たとえば、文字原稿も含め画像が荒れることなくクリア表現できる。加えて、30 フレーム対応のため、フレーム数が少ない場合に発生しやすい、ズーム調節時や被写体を動かし

たり、被写体切り替え時に生じる残像などのストロボ効果を大きく軽減している。」(エルモ社)

また P100 は、XGA や SXGA の他、HD(1280x720ドット)出力に対応しており、16:9 ハイビジョン対応モニターでも表示が可能。一般的な書画カメラ使用以外にもテレビ会議システムの1入力ソースとしての書画カメラの使用が増えていると言われている。とりわけ P100 は、HD 対応のテレビ会議システムの書画カメラとして最適という。



P100

その他豊富な機能が装備されている。(1)USB2.0 端子対応。USB2.0 端子によって、投影されている静止画像にパソコンからラインや文字を書き込むことができる描画機能や情報を一度に見せられる画面分割機能を可能とする。

(2)SD カード対応。SD カード(別売り)に、パソコンのデータをその SD カードに保存しておけば、パソコンを運ばなくても、スライドショーやプレゼンテーション表示を P100 で可能にする。

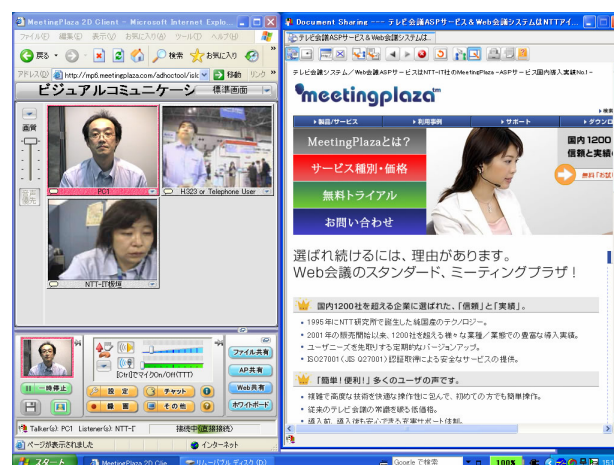
P100 の本体価格は、398,000 円(税別、以下同)。その他、最近低価格でポータブル性の高い「L-1n」や「FF-1」も提供

している。L-1n は、115,000 円。FF-1 は、95,000 円。

エルモ社は、書画カメラ、ネットワークカメラ、マイクロカメラなどを開発販売や、AV コントロール、トータルモニタリング、デジタルセキュリティなどのソリューションを設計施工も含め提供。創業大正 10 年、設立昭和 8 年。本社名古屋。国内拠点の他海外にもアメリカとドイツに現地法人がある。売上高 111 億円(2006 年度連結)従業員数 314 名。

「当社は、特に文教系に強いと言われているが、今後は一般企業向けのビジネスも強化したいと考えており、たとえば HD 化するテレビ会議システムと当社の書画カメラを組み合わせたソリューションなどを積極的に提供していきたいと考えている。」(エルモ社)

## NTT アイティの Web 会議、H.323 ゲートウェイに対応、また Ver 4.5 で新 GUI を採用



### 新しい GUI を採用した MeetingPlaza

NTT アイティ株式会社(神奈川県横浜市)は、同社が提供している Web 会議システム「MeetingPlaza(ミーティングプラザ)電網会議室」と、H.323 準拠のテレビ会議専用端末が相互に接続できるソフトウェア「MeetingPlaza H.323 ゲートウェイ」を開発した。また合わせて、MeetingPlaza 電網会議室 Ver. 4.5 を発表。新しい GUI(画面)を採用し、H.323 ゲートウェイにも対応した。販売開始は、11 月上旬から。

テレビ会議専用端末と Web 会議システムは、基本的に

通信方式の違いにより相互に接続できないが、MeetingPlaza H.323 ゲートウェイは、テレビ会議システムと Web 会議システム MeetingPlaza の両方の通信方式を実装することで接続を可能とした。これにより、たとえば、「本社支社で実施しているテレビ会議に、営業所・販売店より PC で Web 会議から参加する等、テレビ会議と Web 会議を融合した会議を行うことができ、会議システムの適用範囲を拡大できる。」(NTT アイティ)

つまり、テレビ会議端末と Web 会議との効率的な活用が図られると同社では見ている。

MeetingPlaza H.323 ゲートウェイの活用方法としては、H.323 ゲートウェイを MeetingPlaza と同じ LAN やイントラネット上に配置して利用する。そして、MeetingPlaza の通信方式と H.323 の通信方式が違うため、ゲートウェイ装置において、通信方式のトランスレート(通信方式の相互変換)を行う仕組み。

H.323 ゲートウェイが採用している方式については、映像符号化方式は、H.261、画素数は、CIF(352x288)、音声符号化方式は、G.711、サンプリングレートは、8khz。MeetingPlaza 側は、映像音声ともに独自方式を採用している。

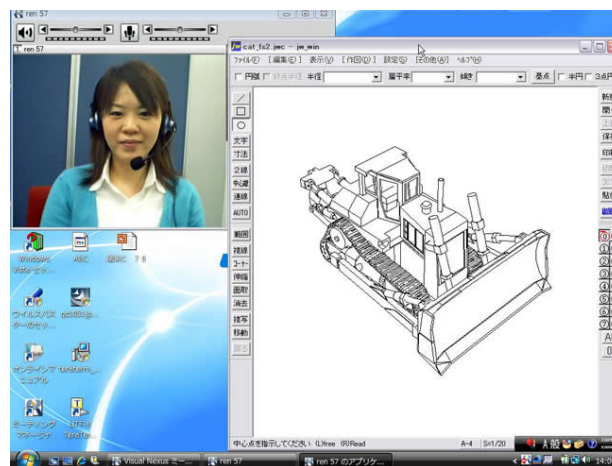
ゲートウェイのソフトウェアライセンスについては、接続する多地点接続装置とテレビ会議端末の数によって異なる。(多地点接続装置の接続数は、1に相当する。)価格(消費税別)例として4端末接続が 100 万円。8端末接続が 140 万円。16 端末接続が 220 万円。

NTT アイティとしては、平成 19 年度の販売目標を 100 システムと計画している。

### 沖電気工業と沖電気ネットワークインテグレーション、Visual Nexus 新バージョンを発表

沖電気工業株式会社(東京都港区)と沖電気ネットワークインテグレーション株式会社(東京都江東区)は、ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」の最新バージョンとして、「Visual Nexus ver 3.2 SP1」を開発したと発表。

この新しいバージョンでは、マイクロソフト Windows Vista 搭載パソコンでの動作対応や、Visual Nexus が持つアプリケーション共有機能も強化された。



#### Visual Nexus

製品は、ソフトウェア並びにアプライアンス製品として 10 月下旬より販売開始。ソフトウェアは、沖電気工業が販売を行い、アプライアンス製品については、アプライアンスサーバー「VOCS(ボックス)5100」として製品ラインナップを拡充販売を行う。出荷は、11 月 22 日より。

消費税別標準価格(Media Translator のみ 1 ユーザライセンスでその他は、同時 10 ユーザライセンス)は、多地点会議サーバ用 Visual Nexus Meeting Server ver3.2 SP1 が、198 万円、端末用 Visual Nexus Endpoint ver3.2 SP1 が 98 万円、オプションとしては、Visual Nexus Secure Transport ver3.2 SP1 が 98 万円。Visual Nexus Media Translator が 9 万円。

11 ライセンス以上の場合、別途追加ライセンス費。VOCS 5100 は、導入規模によって変わるため個別対応。

Visual Nexus は、トーマンサイバービジネス株式会社(現 TCB テクノロジーズ株式会社)が 2003 年に発売した H.323 対応 PC ビデオ会議システム。今年 2007 年に沖電気工業が TCB テクノロジーズから Visual Nexus 事業部門を買収し、現在は、ビジュアルネクサスカンパニーで事業展開を行っている。製造業、流通小売業、金融業など国内外 280 社以上の企業に導入されている。



沖電気工業は、年間 1500 ライセンス販売を見込んでい  
る。

## 導入 news-国内

### 北海道大学医学研究科、道内の遠隔医療支援のため WebEx Meeting Center を採用

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社(東京都港区)は、国立大学法人北海道大学医学研究科(北海道札幌市)が、WebEx の Web 会議サービスのひとつである「WebEx Meeting Center(ウェブエックス・ミーティング・センター)」を採用したことを発表した。

今回の採用は、今年で創立 90 周年の株式会社北洋銀行(北海道札幌市)が CSR(企業の社会的責任活動)の一環として道内の遠隔医療の促進を目的に北海道大学医学研究科に寄贈するもので、道内全域 600 箇所の病院へ Web 会議用カメラも寄贈される。

WebEx 導入前では、CT や MRI 画像などをひとつの施設で管理されている画像サーバから読み取って診断などを行っていたが、通信インフラの未整備の地域病院や画像サーバ設置のコスト負担といった問題があった。

今回のそういった問題を解決するにあたって、インフラレベルの異なる大学病院と地域病院間で、専用の画像サーバを介さず画像や書類を共有できること、インターネット環境があればどこからでも利用可能という利便性などが重要なポイントだった。

今後はそういった医療現場での活用や、「オール北海道先進医学・医療拠点形成プロジェクト」などでも利用が予定されている。同プロジェクトでは、札幌医科大学、北海道大学医学研究科、旭川医科大学が協力して、先進医学・医療の橋渡し研究、臨床治療に関する拠点形成を目指しており、3大学の学長及び研究科長間の会議、国内外の企業や有識者との会議、そして定期的な学術シンポジウムなどが予定されている。

北海道大学医学研究科 <http://www.med.hokudai.ac.jp/>

北洋銀行 <http://www.hokuyobank.co.jp/>

## 海外 news-業績発表

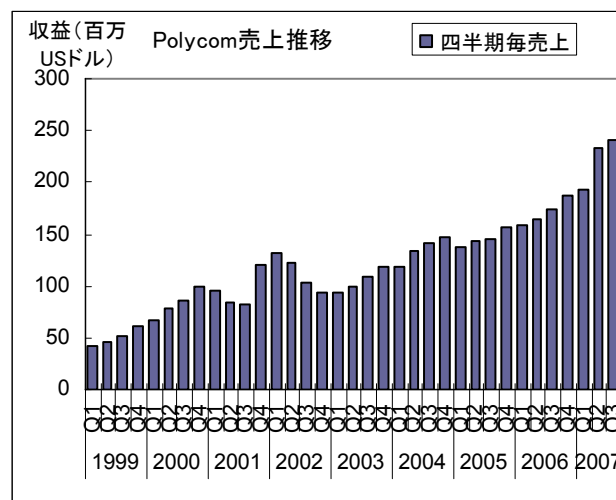
### NASDAQ 上場企業などの業績レポート

2007 年第三四半期(7月-9月)

### 米 Polycom 社

米ポリコム社が、10月15日に開催した業績発表によると、第三四半期の売上は、2億4000万USD(約275億円)を記録した。そのうち買収を完了した SpectraLink 社の売上 3780 万 USD(約 43 億円)を含む。SpectraLink 社は、ポリコム社が進める Voice Over Wireless LAN(ワイヤレス LAN を通じた音声通話)のコア技術を提供する。

システム別売上では、テレビ会議システムが 47%、ネットワークシステムが 14%、音声会議システムが 39%。そのうちビデオ会議システムでグループタイプが 19,529 台、デスクトップシステムは、9,543 台/シートを販売した。



地域別売上では、北米が 60%、EMEA(欧州中東アフリカ)が 22%、アジア太平洋が 15%、中南米が 3%。

今四半期では、新製品として、HD 対応のビデオ会議システム「HDX 4000」と「HDX 8000」、テレプレゼンスシステム「TPX HD」(日本未発表)、マイクロソフト「Office Communications Server 2007」向けのスピーカーマイクや各種電話機、また、ソフトウェアアップグレードとして、RMX 2000(ver.2.0)や ReadiManager SE 200(ver.3.0) など

を発表している。

その中で昨年秋に発売されたHDビデオ会議システム HDX 9000 シリーズの売上げが好調という。「第三四半期では前四半期から 40%増、売上的にはテレビ会議システム製品全体の 1/5 以上を占めるまでに来た。」(CFO Michael Kourey 氏)といい、それに対して CEO Robert Hargarty 氏は、「HD は、ビジネス標準の映像品質 (business definition)。」と述べ、今後ビデオ会議のHD化が加速していくことに対して期待を見せた。

と同時に、テレプレゼンスシステムへの期待も高く、「第三四半期では、200 万 USD (約 2 億 3000 万円) の売上があった。」(CFO Michael Kourey 氏)と言及。テレプレゼンス製品の立ち上がりに満足感を示し、今後は新製品の TPX HD とともにテレプレゼンスの販売も強化したいと考えているようだ。

製品ラインナップの充実化に合わせて各社との提携も積極的に進んでいると説明。シスコシステムズ、3Com、マイクロソフト、アルカテル/ルーセント、アバイア、ノーテル、IBM、AT&T、easynet などと戦略的な提携を行っているという。「新製品やこれらの戦略的提携によって、ポリコムはコラボレーション市場での競争において有利な立場を築くことができる。」(CEO Robert Hargarty 氏)と今後の展開に自信を見せる。

## セミナー・展示会情報

**OKI のビデオ会議で経費と時間のコストダウンを実現!**

日時: 11 月 7 日 (水) 15 時 00 分 ~ (受付 14 時 30 分 ~)

会場: 沖電気工業株式会社 虎ノ門ショールーム

主催: 沖電気工業株式会社

共催: 沖電気ネットワークインテグレーション株式会社

詳細・申込: <http://www.oki.com/jp/IPtel/seminar/vn.html>

\*ビデオ会議の導入効果と OKI ビデオ会議システム「Visual Nexus」の紹介。

**無料 Web セミナー: SaaS モデルの導入で投資対効果はアップするのか?**

~ Web 会議を例に徹底検証 ~

日時: 11 月 13 日 (火) 14 時 ~ 15 時

会場: インターネット上の会場 (オンライン)

主催: ウェブエクス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込: [http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar\\_111307.html? SourceId=hpg](http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_111307.html? SourceId=hpg)

**ポリコム最新 HD ソリューションセミナー  
~ リアルタイムとストリーミングで活用広がる HD ビデオコラボレーション ~**

日時: 11 月 20 日 (火) 午後 3 時 30 分 ~

(開場: 午後 3 時)

場所: ホテルニューオータニ東京

ザ・メイン アーケード階「悠の間」

主催: ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込: <http://www.polycom.co.jp/event/071120i/>

\*ポリコム 2008、ポリコム社の目指す今後の方向性や『HD ビデオコラボレーションソリューション』のデモ。

## 編集後記

今号もお読みいただきまして有り難うございます。

日経BP社主催ビジュアル・コミュニケーション 2007 で講演させて頂きましたが、お陰様で多数ご参加頂きました。この定期レポートの読者でご参加頂いた方いらっしゃいましたらこの場にてお礼申し上げます。ありがとうございます。

当日の資料をサイトにアップいたしましたので、宜しければ下記 URL からダウンロードしていただければ幸いです。PDF ファイルです。

10 月 24 日分

<http://cnar.jp/home/CNAarchive/cnar-tutorial-1024.pdf>

10 月 26 日分

<http://cnar.jp/home/CNAarchive/cnar-tutorial-1026.pdf>

次号ではユニファイド・コミュニケーション関連や業績発表などを中心にレポートする予定です。また、ビジュアル・コミュニケーション 2007 のレポートも予定しています。

今後とも宜しくお願い致します。

橋本啓介